



包括的家族支援論の構築

保健福祉学部 人間福祉学科
准教授 大下 由美（おおした ゆみ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4529号室
Tel 0848-60-1243 Fax 0848-60-1243
E-mail ohshita@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： ヒューマンサービス

キーワード： 社会構成主義、生成的システムズ論、言語ゲーム、ケア論、測定論、家族支援、ナラティブ・アプローチ、解決志向の短期療法、循環的質問法

● 現在の研究について

現在の研究の柱は、以下の2つになります。

1) 支援モデルの理論的研究

社会構成主義的な視点から、基礎理論、変容論、技法論および測定論を体系化し、かつ短期に生活場面の諸問題を「解決」していく支援モデルの理論的研究、技術的研究をしています。また、米国ミシガン大学の研究者と慢性疾患を有するクライアントの問題解決過程の生成について国際共同研究を継続しています。現在は、これまで問題解決の資源としてきた意味構成と行為選択に期待を加え、3つの要素を軸にした循環的質問法の類型とその使用法を体系化する研究に取り組んでいます。この研究が進展することで、支援者がクライアントの語りから問題解決資源を引き出す効果的な技法群とその選択方法が、論理的に説明されます。

2) 効果測定法の研究

対人支援活動の測定法は、質か量かの二分法によって論じられてきましたが、第3の効果測定法の構築を目指して研究を進めています。1) で取り組んでいる支援者の使用技法の論理的研究が進展することで、技法選択とクライアントの差異の生成力学の変容（この力動性の変容の測定法を[MMIE: Measurement Method of Intervention Effect]としてプログラム化した)を、より精密に測定する方法が、体

系化されます。

● 今後進めていきたい研究について

1) 理論的研究の推進

より洗練された基礎理論から技法・測定論までが体系化されている支援モデルの構築に取り組みます。

2) 手話言語を用いた支援論の構築についても研究を始めています。

3) 実践的研究の推進と教育プログラム開発

構築された支援モデルを、様々な分野での困難事例に適用し、その効果を測定する研究を継続し、専門的実践技術の研修プログラム作りに取り組みます。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

地域の保健福祉分野で活躍されている専門家の皆様との協働により、開発した支援モデルに基づく困難事例への具体的な支援法を立案し、その解決の実現に取り組みます。そして、その効果を測定していく臨床実践研究を進めていきます。

● これまでの連携実績

* 地域活動

1) 広島県内で活躍する臨床家を対象とした、公開講座「家族支援の実践実技講座」を毎年開催しています。

2) 包括的家族支援論研究会など、臨床家のための研究会を継続して開催しています。

3) 地域福祉や児童や障害福祉領域での専門家を対象とした事例検討会を開催しています。

* 獲得した科学研究費

基盤研究(C)「短期の解決規則ネットワークの生成モデルの構築」研究課題番号:16K04165。2016年～2020年。